

2015年12月4日(金)

未来への扉



高等特別支援学校 支援部 第76号

「数学」の授業から

数学の授業で「聞き取り文章題」という数学の文章題のリスニングがあります。配られるプリントには問題が書かれておらず、先生が読み上げます。1回で聞き取れない場合は申し出て、もう2回まで計3回は繰り返すこともできます。(年度、担当者によって多少のルールの違いはあります)

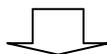
これは数学ではありませんが、メモを取る職業の学習も兼ねています。

例題「①1年生の先生は男の先生が3人、女の先生が4人です。1年生の先生は全員で何人でしょうか？」

下のようにほぼ白紙のプリントをメモ用紙のように使って式を立て、計算し、答えを導き出します。

①

答 _____



① (解答の例) おとこ 3 おんな 4

3 + 4 = 7

答 7人

最初は上のような学校生活に合った問題なので、問題の後半を聞いただけでも分かりそうな問題です。(数学としてではなく。)

毎年の傾向として、本校の生徒は文章題が苦手、そして全体の指示が理解しにくい生徒も多いです。だから簡単な問題からその苦手なことにも挑戦をしていきます。その中には、必ず次に挙げる2タイプの生徒の存在があります。

タイプA：こだわりを止められない

3回のリスニング全てを使って一言一句正確に問題文を書き写し、そこから式を立てようとします。

「解答の例をみてごらん。大切なところをメモするだけだから全部書かなくてもいいんだよ。」
と言ってもこだわりを止められません。

何回か様子を見ても止められない時は、書ききれないほどの長い問題文にします。(意地悪しているようでイヤなのですが。) そうすると式を立てるところまで行き着きません。そこでやっと解答例のようにメモを取ろうとし始めます。

私の知っている生徒は全員これでメモの形を取れるようになり、正解できるようになりました。文章全体の中から「どこが大切なポイントか？」と考えながら聞く練習を繰り返し、できるようになっていくのです。

タイプB：マイペースを崩せない

リスニングを1回、2回と進めてもまるで聞いていない様子の生徒がいます。ファイルをさわっていたり、消しゴムのカスを集めていたり。あせった様子もなく、後でやったら済むことを延々としているのです。

「聞き取り文章題」は先生1人が読み、生徒20人もしくは40人が聞いています。先生の読むタイミングに生徒が合わせなければ、聞き取ることはできません。

ついに3回全て聞いていない時が訪れました。
「先生、もう1回読んでください。」
「あら、4回目はない約束でしたよ。」
それに対して「僕はそんな約束聞いていない！」と怒り出した生徒もいましたし、静かにあきらめた生徒もいました。

同じなのは、次の数学の時間からはこちらのタイミングに合わせてようと努力し始めたと感じられたことでした。

結果、長くても半年くらいでスムーズに「聞き取り文章題」ができるようになります。本人が困ったからこそ、こだわりもマイペースも変えることができます。答えに○を付けるための努力が、必要なやり方を身につけさせていきます。

タイプAは聞くことと選ぶことを同時にしながらポイントを理解するやり方を、タイプBは人の行動に合わせて自分の行動を調節するやり方を身につけていきます。15年以上していた自分とは違うやり方をする訳ですから簡単ではありません。柔軟性のある今の若い時期を逃したくないですね。

第73、74号のA君に再び登場してもらいます。4つあった課題は下の通りです。

- ①気温に合わせた服装の調節
- ②前向き(ポジティブ)に行動する
- ③全体への指示を理解する
- ④突然の大きな音でも平常心でいること



①②についてはその号でお話ししました。
今回は③についてお話をしました。本校には③の課題を持つ生徒は、程度の違いはありますが数多くいます。

今回前半のお話にあったように、全体への指示が理解できない原因は人それぞれ違います。タイプAの生徒のようにポイントが分からないのか、タイプBの生徒のように人に合わせられないのか? 外国語を聞いているように単語くらいしか分からない状態の生徒や、周囲の大勢の人で気が散って指示を聞きにくい生徒がいるかもしれません。私達の分からない困難さを抱えている生徒もいると思います。そのいろいろな要因を2つ3つ持っている生徒もいるかもしれません。

A君のように、原因も、どのようにしたら解消できるかも、本人や周囲共ははっきりとは分からないことが多いのです。

学校で数学の他に職業実習や家庭科、学校生活全般でもメモの学習をしています。スモールステップを踏んで、簡単なところから苦手なところに挑戦していきます。**手持ちの力を使い、今のできなさを引き受けて、なんとかやりくりしながら、今までのやり方を変える事で、新しい方法を見つけていきます。**

①②③については、生徒の発達と、その発達を伸ばす支援で上手にいった例を紹介してきました。しかし発達だけでは障害特性をカバーできない場合もあります。

次回2学期最終号では④についてそのお話を予定しています。

